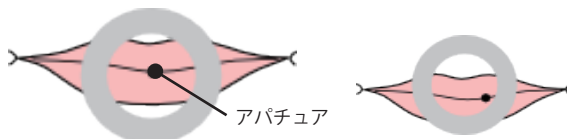


プラスチック製で、耐久性と堅牢性に優れ、バクテリアや微生物の繁殖を阻止し静菌・防腐効果を発揮する BioCote®(バイオコート) を採用しています。楽器を使用する前、また楽器表面が汚れたら、温かい石鹸水を含ませた柔らかい布で拭き、付着した水分を拭き取ってから乾燥させてください。演奏すると管に水分が溜まるので、ウォーターキーから余分な水分を抜いてから保管してください。

## 音の出し方

1. 口を閉じ、マウスピースに当てます。
2. 口を少しだけ開き、息を入れます。この時、息を吹き込んだ時に開いた穴を“アパチュア”といいます。
3. 音が出たらアパチュアを小さくしていきます。

### ● 標準的なマウスピース付近の図



### ● 音を出すポイント

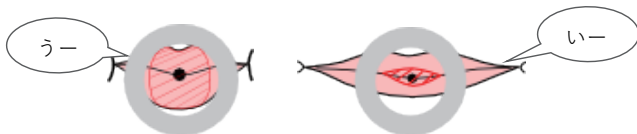
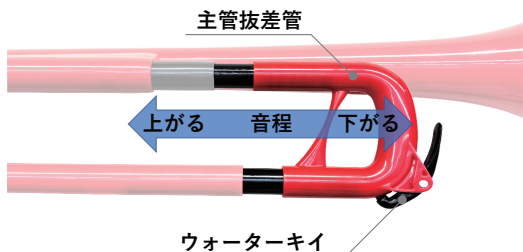
唇の振動によって音を出します。ケーキのろうそくを消すイメージで、マウスピースに息を吹き込みます。息のスピードが早くなるとアパチュアが開きやすくなります。開きやすくなる分、アパチュアを小さくすると高音が出しやすくなります。息の量やスピードによって音階が変化します。

### はじめての音出し

マウスピースと口のすきまから息が漏れる。きれいな音が鳴らない。高い音が鳴らない。音が出る感覚を掴むまでは思う様に音が出せないことがあります。個人差でアパチュアが口の中心になかったり、口をマウスピースの上の方に当てる / 下の方に当てる方が出しやすい場合もあります。自分が発音しやすいポイントを見つけましょう。

### ● 音程

音程はアンブシュア（口の形や口周辺の使い方）によって大きく上下します。アンブシュアが固定した上で抜差管の抜き差しで微調整することができます。



「う」の口の形は唇がゆるみ、振動する範囲とアパチュアが大きくなりがちです。 → 高音域は発音できません。

「い」の口の形は唇を締めることができ、アパチュアも小さくしやすくなります。

- ※「い」の形が推奨されますが、低音域も同じ形で発音できることが理想です。
- ※唇の振動やアパチュアのコツを体でつかむ・覚えることが上達の近道です。
- ※コツをつかむことができれば、小さなお子様など少ない息でもキレイな音が出せるようになります。

## 音域／持ち方

実音	シ♭	ファ	シ♭	レ	ファ	ラ♭	シ♭
inB♭	B♭ <sub>3</sub>	F <sub>4</sub>	B♭ <sub>4</sub>	D <sub>5</sub>	F <sub>5</sub>	A♭ <sub>5</sub>	B♭ <sub>5</sub>
(トランペット等)	ド	ソ	ド	ミ	ソ	シ♭	ド

pBugle は、倍音のみ発音します。トランペット同様に B♭<sub>3</sub> 以下の音域や B♭<sub>5</sub> 以上の音域もトレーニングによって発音可能です。

### 持ち方

軍隊では右手でベルの中間部辺りを握り、左手は背中にも組む構え方が一般的です。pBugle は楽器の保持ができれば両手でどこを掴んでも問題ありません。ご自身にあった持ち方を工夫してみてください。